

の5m滝は、右岸の草付との境を下り、10m滝はスタンスを拾いながら慎重にクライミングダウンする。花崗岩の沢であるが、なかなか滑りやすい。

沢はやがてどうぞ滑って下さいといわんばかりの程良い傾斜のナメと変わった。遡るならどうということもないナメであるが、下りはなかなかやっかいな傾斜である。灌木をつかみ、足場を拾いながら慎重に下るが、それでも2～3度滑ってしまった。

ナメが終わると滝である。ここも登るならそれほど苦労はなさそうだが、下るとなるとやっかいな滝ばかりである。最初の5mは右岸のブッシュ帯を下り、次の7mはシャワーを浴びながら右岸をクライミングダウンする。そしてその先の30m滝は、とうとうザイルのお世話にならざるを得なくなった。2回に分けて懸垂下降である。灌木や残置ハーケンに真新しいシュリングが残されており、ごく最近ここを下ったパーティがあるようである。その下の20m滝も、ザイルの長さいっぱいの懸垂下降で下る。ここが右俣の核心部である。すぐ右手から左俣が合流する。

左俣と合流した後は、今朝遡った部分である。滑りやすい岩に注意しながら下る。二俣と20m滝の間にある7m滝は懸垂下降。そして20m滝は右岸を捲いて下る。あとはゴロ帯を歩き、最初の砂防ダムの所で、右岸の林道に上がって、終了とする。

(記・i)

[タイム] 五泉の泉(10:45, 10:55)→二俣(13:30)→西沢出合(14:45)→下降終了(14:55)

## 大川支流上ウミ沢左俣 1992年7月26日

L!

12時10分、上海山南方の標高1438mのピークから下降開始。4m滝の上で沢に出る。このあとしばらくは河原状の沢の下降が続く。途中左岸から10mの滝となって支沢が入っているが、それ以外は小さなガリー状のものが合流するだけであった。

やがてナメが出てきて、その下に3mの滝。これを越えると今朝方遡行した右俣との出合であった。下の林道の橋まで下り、下降終了とする。( )

[タイム] 下降開始(12:10)→右俣出合(13:20)→下降終了

### 大川支流上ウミ沢右支流

1992年7月26日

L!

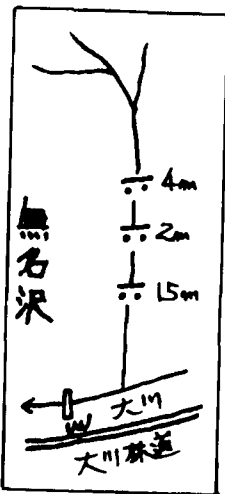
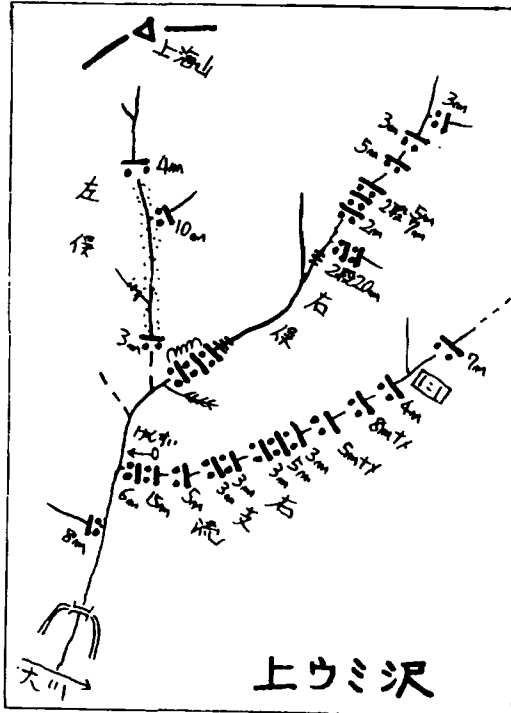
下ウミ沢の遡行を終え、尾根を越えて上ウミ沢右支流の源頭をめざす。急な斜面をヤブこぎの後ガレ場に出、そこから少し下ると源頭に出た。すぐに7mの滝がかけ、左側を下降すると二俣に出る。このあとは滝の連続となった。まず4mと8mの滝を下降し、続く5m、3m、5mの滝は、左側を搦って下降する。続く3mの滝の下降でハプニング。ホールドが崩れてバランスを失い、1m程滑落する。とても怖い思いをする。

その後も3mから5mの滝が次々と続いて、一気に高度を下げていく。上ウミ沢本流との出合は15mと6mの階段状の滝で、左側を懸垂下降する。

出合からは30分河原歩きをして下降終了。私達のパーティが一番遅くなったようで、早く下ったみんなが車で迎えに来てくれていた。リーダーについていくのと記録をとるのに精一杯で、長いようで短かった一日でした。

(記・1)

[タイム] 下降開始(11:50)→源頭(12:30)→本流出合(13:50)→下降終了(14:10)



### 大川支流無名沢 1992年6月13日

L!

9時10分、上ウミ沢と下ウミ沢の間で右岸から大川に合流する無名沢に向けて下降開始。急斜面を下り、ガレ沢を分ける小尾根を下る。20分で沢に降り立つが、降り立った所は浮石のいっばいまったガレ沢である。浮石の上にか足を置く場所がなく、落石を起こさないように神経を使う。下り始